

室内環境におけるノロウイルスの消長と除染法の研究

保健科学課 川本大輔・若月紀代子・樋脇弘

第 35 回 日本防菌防黴学会年次大会

ドアノブにノロウイルス (NV) を塗布し、NV コピー数を経日的に測定するとともに、水、衣類用液体洗剤、食器洗い用洗剤、逆性石けん液、70%エタノールおよび床用洗剤の計 6 種類の除染剤を用い、その除染方法について検討した。

ドアノブに塗布した NV のコピー数は、無風状態でも有風状態でも、同じように経日的に緩やかに減少し、風による影響はみられなかった。実験環境下において NV の RNA は安定しており、2 ヶ月放置後も、コピー数はわずか 1 オーダーしか減少しなかった。

いずれの除染剤を用いた場合も、NV 液の塗布部を乾燥させると乾燥させない状態よりも拭き取りによる除染効果が低下した。水を使用して拭き取った場合、乾燥状態でもウイルスコピー数は約 2 オーダー低下したが、原液の各薬剤で拭き取った場合、除染効果は水より劣った。しかし、各除染剤を推奨使用濃度で使用した場合は、水と同等以上の除染効果が認められた。なお、水を 2 回滴下し、拭き取ることにより、ウイルスコピー数は検出限界 (10 コピー数) 以下まで減少した。